

情報種別 : 関係社外秘
会社名 : 株式会社NTTデータユニバーシティ
情報所有者 : セールスプロモーション部

人材育成サービスのご紹介

株式会社NTTデータユニバーシティ
セールスプロモーション部



NTT DATA
NTT DATA UNIVERSITY Corporation



Trusted Global Innovator
NTT DATA Group **NTT DATA**

NTTデータユニバーシティ 会社概要

当社は日本最大のシステムインテグレータであるNTTデータのシェアードサービス企業として2001年に発足しました。NTTデータ & グループ企業、グループ外の一般企業に対して、人財開発に関わるソリューションをご提供しています。

企業概要

会社名 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
NTT DATA UNIVERSITY CORPORATION

設立 2001年8月1日

代表者 代表取締役社長 藤原 慎

資本金 1億円

株主 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ 100%

社員数 100名（2023年7月1日時点）

事業内容 ITに関する教育・研修
社員、管理者、役員等の育成、能力開発、
および業務知識・専門知識に関する教育・研修
能力開発、研修に関する調査、コンサルティング
シンポジウム、セミナー等の企画、運営 等

サービスの特徴

1 上流から下流までの一貫したサービス

人財戦略の策定から研修の提供・運用まで、
一貫したサービス提供が可能

2 NTTデータグループでの 実績に基づく良質の研修群

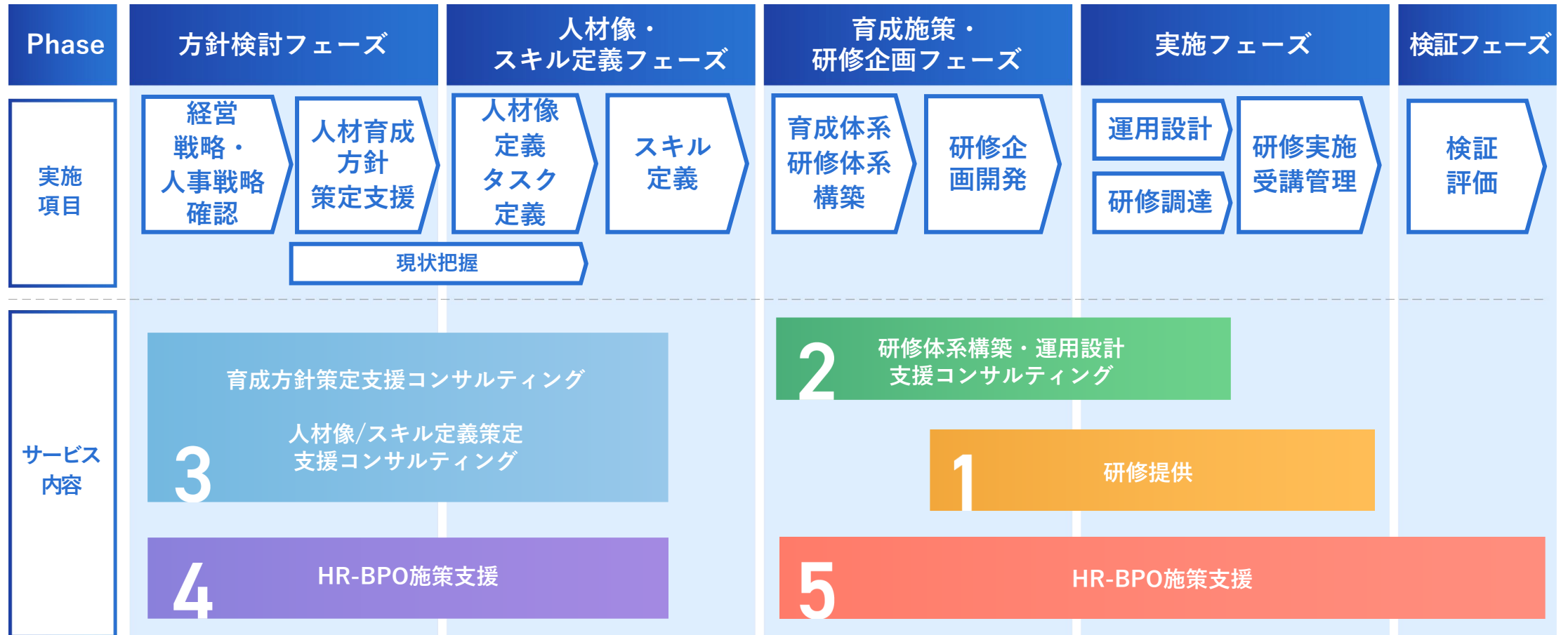
NTTデータグループに提供し高い評価を得た良質の
研修群を保有（約3,000コース、年間8万人・日が受講）

3 NTTデータグループ教育市場を背景とした調達力

NTTブランドの中立性をいかし、
偏りのないマルチベンダ体制（50社超）を構築
グループ内マーケットをベースにした集中購買により、
低価格での提供が可能

弊社サービスの全体像

NTTデータグループ人材育成支援のナレッジを活用しながら
人材育成方針の検討から育成施策の運用・検証までの人材育成に関わる様々な課題に対応いたします。



各サービス概要

サービス項目	概要
1 研修提供	テーマ・レベル別に 研修をご提供いたします。お客様の育成体系にあわせて、お一人様からご受講いただける「オープンコース」と、お客様組織のご要望に合わせて企画・カスタマイズを行いお客様のみで行う「個社開催コース」のご提供が可能です。
2 研修体系構築・運用設計 支援コンサルティング	研修体系を策定することで組織団体のスキル領域、業務へ連動し、単発の研修以上に、従業員の能力・モチベーションの向上が期待されます。結果、組織全体力を上げる事のできるサービスとなります。
3 育成方針策定支援コンサルティング 人材像/スキル定義策定 支援コンサルティング	戦略・組織内容をふまえてどのような人材を育成してゆくかの方針・担う業務を整理いたします。目指すべき人材像を定義します。どのような役割を担い、どのような経験知識・スキル（概要）が必要かを定義するサービスとなります。
4 アセスメント実施・分析	人と組織におけるパフォーマンス向上の支援に向けて、個人と組織の双方に必要とされるアセスメントを提供し、定量的に現状を明らかにし現実的な対応策を検討できるサービスを提供いたします。
5 HR-BPO施策支援	研修体系管理以降の工程をアウトソースいただくことにより、人事部様の役割シフト実現を目指すサービスです。



研修提供

1

研修提供

- NTTデータユニバーシティでは、
当社主催研修及び、他研修会社主催研修を扱っております（マルチベンダー制）。
- 幅広いテーマ、レベルに合わせた各種研修をご提供しています。
- 多数の研修を比較し、より高品質な研修を選別してご提示しています。



NTTデータユニバーシティ主催研修

デジタル・IT人材の
育成に適した研修体系
研修コンテンツ・講師を選定し
研修体系を策定

NTTデータナレッジの活用

NTTデータグループに提供し
高い評価を得た研修の提供

提携研修（他社主催研修）

豊富な実績による 研修の目利き

アライアンスを組む約50社の研修会
社の研修から、良質な研修を選定

NTTデータナレッジの活用

IT関連の研修以外にも、
幅広いテーマの研修を提供

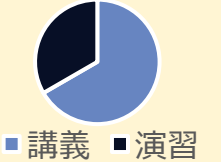
約3,000コースからご要望に合わせたテーマの研修を提供 & 高品質で利便性の高いサービス提供を実現

デジタル活用研修

コースコード：

DX Workshop プランニング編

DXを支える各技術要素や他業界との協創など必要となる考え方や知識を理解、DXを推進する上でのポイントやDX時代を支える技術要素を理解するとともに、システム導入プロセスや視野の拡大のための観点を理解していただきます。

**対象者**

これからDXを推進する業務に携わるマネジャー、リーダー層の方

期間

1日間

学習形態

集合・
Liveオンライン

**金額
(税込)**

要相談

前提条件

DXの基礎理解がされていること

効果・達成目標

DXを考えるための枠組みを理解し、事例を読み取り、自分なりに置き換えできる。DXを推進する際の思考・行動のポイント、課題の乗り越え方を理解できる。DXを考えるための流れ、思考方法を理解し、実践できる

主なカリキュラム

- 1 なぜDXが必要か
- 2 DXへのアプローチと進め方、DXビジョンの必要性
- 3 世の中のDX事例
- 4 DX推進においてリーダーに求められること

特徴

講師や受講者同士での相互コミュニケーションを得ながら、DXプランニングフレームワークに沿って、自らがDX推進に向けた企画を考え・発表いただくため、実業務にも活かせる内容となっています。

コースコード：

DX Workshop プランニング編

カリキュラム

アジェンダ / 内容

第1章 なぜDXが必要か

- ・企業を取り巻く環境変化
- ・産業におけるデジタルの波の到来、破壊者の到来

第2章 DXへのアプローチと進め方、DXビジョンの必要性

- ・DXビジョン・危機感の共有
- ・DXジャーニー、顧客志向

第3章 世の中のDX事例

- ・DXの種類、DXのステップ
- ・社内外の取り組み事例

第4章 DX推進においてリーダーに求められること

- ・DX推進リーダーの資質、思考/行動姿勢

【演習】DXプランニングワークショップ

DXキャンバスの策定・討議、DXアイデア実現に向けた行動計画・決意表明

【事前課題】

研修当日ワークにて議論するためのDXアイデアを事前検討していただきます。

- ・「環境変化分析シート」の記入
- ・「DXアイデアシート」の記入
- ・「DXキャンバス」の記入

コースコード：CD5010

DX Startup Seminar

DX時代に対応するために動きだそうとしている企業様を対象にDXにまつわる現状や、各企業に求められる変化とは何かについてご理解いただき、自社におけるDXを推進するための足がかりを見つけていただくことを目指しています。ビジネス環境の変化だけでなく技術の変化にも触れることから、事業部門の方のみならずIT部門の方々にもおすすめです。

対象者	事業部またはIT部門の社員（主任～部課長層）	期間	0.5日間	学習形態	Liveオンライン	金額 (税込)	33,000円	前提条件	なし
-----	------------------------	----	-------	------	-----------	------------	---------	------	----

効果・達成目標

DXとは何かを理解し、説明することができる。DXの背景にある原動力について概要レベルを説明できる。
DX時代に何が求められているかについて説明できる。

主なカリキュラム

- 1 DXの定義
- 2 DXに関する代表的な事例
- 3 DXに向けて何をすべきか
- 4 技術の変化
- 5 経済の変化
- 6 社会・ライフスタイルの変化
- 7 政治の変化
- 8 求められるインテリジェンス

特徴

「DXとは何か」「世界で何が起きているか」 豊富な事例を基に理解し、求められる変化を様々な角度から学びます。
DX推進上、必要な思考法や、技術内容を紹介します。DXに関する基礎知識を「全社員」が身に付け、共通言語とすることがスムーズなDX推進に繋がると考え、デジタル技術を自分ごととして捉える力を身に着けます。

コースコード：CD5610

デジタルリテラシー講座 ～DXへのFirstStep～

DXの必要性、DX実現のための前提となるデジタイゼーション、デジタライゼーション違いやデジタル技術のビジネス活用イメージを具体事例を紹介しながら理解します。
デジタル化推進に必要な基礎技術・マインドを個別に紹介し習得します。

対象者

デジタル・DXを浸透させていきたい一般事業会社の社員の方

期間

0.5日間

学習形態

e-Learning

**金額
(税込)**

22,000円

前提条件

なし

効果・達成目標

DXを考えるための枠組みを理解し、事例を読み取り、自分なりに置き換えできる。DXを推進する際の思考・行動のポイント、課題の乗り越え方を理解できる。DXを考えるための流れ、思考方法を理解し、実践できる。

主なカリキュラム

- 1 DXの定義と必要性
- 2 デジタイゼーション・デジタライゼーション・DXの違い
- 3 デジタイゼーション/デジタライゼーションに向けて必要な取組み
- 4 デジタルトランスフォーメーションに向けた必要な取組み・具体事例
- 5 デジタルトランスフォーメーションで用いられる様々なデジタル技術と事例
- 6 デジタルトランスフォーメーションに向けてのマインドセット

特徴

DXを身近に感じてもらうために、DXの前段階であるデジタイゼーション、デジタライゼーションを意識し、DXとはどういうことか、デジタル化に向けて知っておきたい技術要素とはこういったものがあるか、またDXに向けてこういったマインドセットが必要かなど事例を踏まえて学習します。

コースコード：CD5610

デジタルリテラシー講座 ～DXへのFirstStep～

カリキュラム

アジェンダ / 内容

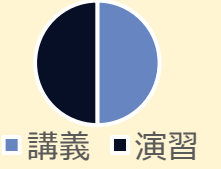
1. DXの定義
2. DXの必要性
3. デジタイゼーション・デジタライゼーション・DX（デジタルトランスフォーメーション）の違い（それぞれの概要、目的、意義(必要性)、相違）
4. デジタイゼーション/デジタライゼーションを実現するためには？
 - ① 既存業務プロセスを可視化
 - ・業務フロー作成および作成方法、
 - ・業務フロー自体を改善するためのデータ取得方法（プロセスマイニングツール）
 - ② 顧客接点デジタル化の具体事例
オンライン接客、契約書電子化など
 - ③ 業務効率化・デジタル化のための具体事例
RPA導入による一部業務の自動化など
 - ④ デジタル化のための技術要素
(技術概要と技術の活用方法・利用目的・提供価値)
 - ④－1 紙→メール・PDF・電子データ化
(ペーパーレス、スマートデバイス等での参照)
 - ④－2 オンライン会議ツール（コミュニケーション効率化）
 - ④－3 コミュニケーションツール（コミュニケーション効率化）
 - ④－4 クラウドツール（業務効率化）
 - ④－5 スマートデバイス（場所を選ばない）
 - ④－6 電子署名・電子契約（業務効率化）
 - ④－7 RPA（手作業自動化による稼働削減）
 - ④－8 Chatbot（接客対応のデジタル化・効率化）
 - ④－9 BI・AIツール（業務・顧客データ利活用）
 - ④－10 AI-文字認識（文字テキスト化による稼働削減）
 - ④－11 AI-音声認識（音声テキスト化による稼働削減）
 - ④－12 ノーコード/ローコード開発（業務自動化による効率化）
5. デジタルトランスフォーメーションに向けた必要な取り組み・具体事例
 - ① 取り組み概要（顧客分析、最適な顧客体験の検討）
 - ② 具体事例
6. デジタルトランスフォーメーションで用いられる様々なデジタル技術と事例 ※参考
(概要と使われ方を紹介し業務改善の発想を広げる)
 - ① AI
 - ② IoT
 - ③ XR
 - ④ 5G他、ブロックチェーン、ドローン、クラウドコンピューティング、量子、...
7. デジタルトランスフォーメーションに向けてのマインドセット※ipaより
 - ・課題発見、現状を変えたい思考
 - ・諦めない力/やりきる力
 - ・新しいビジネス企画力・推進力・発想力
 - ・巻き込み力/調整力
 - ・失敗を恐れず、固執せず、糧にできる力
 - ・新しい知識・スキルの習得に抵抗がない（知的探求心）
 - ・顧客思考、デザイン思考

データ活用研修

コースコード：C06410

データサイエンティスト基礎講座

情報処理、人工知能、統計学などの情報科学を理解し、顧客のビジネス課題の解決に活用するための基礎的な知識・スキルを習得します。データサイエンティストに必要な方法論・知識を学びます。Pythonを用いた演習を通じて、データ分析のプロセスを習得し、課題に応じてどのような手法を活用すべきか判断できるようになることを目指します。



対象者	データサイエンス初心者の方	期間	2日間	学習形態	Liveオンライン	金額 (税込)	132,000円	前提条件	プログラミング、高校レベルの数学知識の活用にアレルギーがないこと 記述統計について基礎的な理解があること
------------	---------------	-----------	-----	-------------	-----------	--------------------	----------	-------------	---

効果・達成目標

データサイエンスの目的とデータ分析の流れを理解し、データを活用した課題解決のための適切な手法の選択ができる。
データサイエンティストが実務で使う代表的な分析手法を学び、基礎から応用までの知識を身に着ける。

主なカリキュラム

- 1 データ分析の流れ
- 2 データを入手する
- 3 解析基礎
- 4 教師なし機械学習
- 5 教師あり機械学習
- 6 分析タスク
- 7 データ活用事例解説

主な演習

- ・データの活用方法
- ・どんなデータがあるか考える
- ・稼働率低下要因分析
- ・歩留まり低下要因分析
- ・課題解決の総合演習

コースコード：C06410

データサイエンティスト基礎講座

カリキュラム

※適宜休憩をはさみます

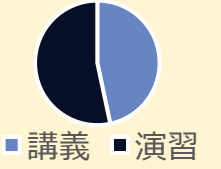
所用時間	1日目 アジェンダ / 内容
20分	オリエンテーション、本研修について、注意事項
40分	第1章 データ分析の流れ (1)データドリブン経営の目指す姿とSTEP (2)データ分析の目的と流れ (3)ビジネス課題解決事例
40分	演習1 データの活用方法
40分	第2章 データを入手する (1)多様な活用データ(2) データマネジメント方法論 (3)データ関連の法規制
40分	演習2 どんなデータがあるか考える
40分	第3章 解析基礎 (1)確立と線形代数と最適化 (2)推測統計とベイズ統計
60分	昼休憩
40分	第4章 教師なし機械学習 (1)クラスタリング (2)次元削減
50分	第5章 教師あり機械学習 (1)回帰 (2)識別
110分	演習3 回帰の演習(稼働率低下要因分析)
10分	まとめ、質疑応答

所用時間	2日目 アジェンダ / 内容
20分	前日の振り返り
120分	演習4 識別の演習(歩留まり低下要因分析)
60分	昼休憩
80分	第6章 応用分析手法 (1)時系列分析 (2)異常検知 (3)画像認識 (4)テキストマイニング (5)数理計画 (6)シミュレーション
25分	第7章 データ活用事例解説 ・社外事例
160分	課題解決の総合演習 個人ワーク、グループワーク、発表
10分	まとめ、質疑応答

コースコード：C06910

データサイエンティスト応用講座

情報処理、人工知能、統計学などの情報科学を理解し、顧客のビジネス課題の解決に活用するための専門的な知識・スキルを習得します。
RもしくはPythonを用いた演習を中心とし、本格的なデータ活用に必須となるプログラミングスキルを磨きます。
最終日は、研修で学んだ技術を活用し、分析精度を競うコンテストを実施します



対象者	データサイエンスの専門的な知識を学びたい方	期間	2日間	学習形態	Liveオンライン	金額 (税込)	132,000円	前提条件	・データサイエンティスト基礎講座(C06410)の内容を理解していること ・記述統計について基礎的な理解があること
-----	-----------------------	----	-----	------	-----------	------------	----------	------	--

効果・達成目標

データサイエンティストが取り組む代表的な分析のプロセスを理解し、分析計画を立案するための基礎知識を習得する。
学んだ知識を活用しながら実務的な局面で分析手法を活用することができる。

主なカリキュラム

- 1 分析プロジェクト設計
- 2 データクレンジングの実践
- 3 データハンドリング概論
- 4 探索的データ解析の実践
- 5 識別タスクの実践
- 6 回帰タスクの実践
- 7 総合演習～分析コンテスト～

主な演習

- ・分析設計演習
- ・データクレンジング、前処理演習
- ・探索的データ解析演習
- ・教師なし学習（クラスタリング）実践演習
- ・教師なし学習（主成分分析）実践演習
- ・総合演習、分析コンテスト

コースコード：C06910

データサイエンティスト応用講座

カリキュラム

※適宜休憩をはさみます

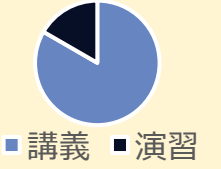
所用時間	1日目 アジェンダ / 内容
20分	オリエンテーション、本研修について、注意事項
110分	第1章 分析設計 (1)代表的なデータ分析のプロセス (2)分析計画の策定 (3)分析設計演習
60分	昼休憩
90分	第2章 データクレンジングの実践 (1)Pythonの説明 (2)データの読み込み方法 (3)読み込みデータの確認 (4)分析用データの作成、加工 (5)特徴量エンジニアリング (6)前処理演習
50分	第3章 データハンドリング概論 (1)分散処理技術 (SQL・RDB・Hadoop・Spark) (2)大量データハンドリング技術とその事例
80分	第4章 探索的データ解析の概要とその実践 (1)探索的データ解析とは？ (2)探索的データ解析における各種可視化 (3)探索的データ解析演習
50分	第5章 教師なし学習（クラスタリング）とその実践 (1)教師なし学習（クラスタリング）の基本事項、留意点 (2)クラスタリング実践演習（モデル作成、評価、考察）
10分	1日のまとめ、事務連絡

所用時間	2日目 アジェンダ / 内容
10分	前日の振り返り
50分	第6章 教師なし学習（主成分分析）とその実践 (1)教師なし学習（主成分分析）の基本事項、留意点 (2)主成分分析実践演習（分析、評価、考察）
90分	第7章 回帰の実践 (1)重回帰分析 (2)重回帰分析のリスク (3)PCR (4)PLS (5)正則化回帰 (6)Leakage問題への対処
60分	昼休憩
110分	第8章 識別の実践 (1)識別分析によってできること (2)ロジスティック回帰 (3)決定木・ランダムフォレスト (4)ホールドアウトによるモデル評価 (5)結果の考察
200分	総合演習 分析コンテスト
10分	まとめ、質疑応答

コースコード：CD5810

データリテラシー講座～データ利活用へのFirst Step～

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進のために重要度が増してきているのが、「デジタル化された大量のデータをどのように利活用するか」という観点です。本講座は、データを扱うために知っておくべき基礎知識やデータの見方、分析の手法などを紹介し、データ利活用に取り組むための第一歩を踏み出していただくことを狙いとしています。



対象者	データの分析や利活用の経験がない方	期間	0.5日間	学習形態	e-Learning	金額 (税込)	22,000円	前提条件	なし
-----	-------------------	----	-------	------	------------	------------	---------	------	----

効果・達成目標

データサイエンスの目的とデータ分析の流れを理解し、データを活用した課題解決のための適切な手法の選択ができる。
データサイエンティストが実務で使う代表的な分析手法を学び、基礎から応用までの知識を身に着ける。

主なカリキュラム

- 1 データ利活用の概要
- 2 データを利活用する
- 3 AIを使ったデータ利活用の高度化
- 4 データ利活用事例
- 5 データ利活用における留意事項

特徴

情報化が進みさまざまなデータを蓄積できるようになった一方で、それらを重要な資産として、全社的に活用できていない現状を踏まえつつ、また、大学の共通科目にもデータサイエンスの要素が取り入れられていることから、専門的な知識を持ったDX推進人材だけでなく、データを活用するための力は全てのビジネスパーソンに受けて頂きたいコンテンツです。

コースコード：CD5810

データリテラシー講座～データ利活用へのFirst Step～

カリキュラム

アジェンダ / 内容

1. データ利活用の概要

- ①データをとりまく社会の変化
- ②データを利活用するとできること

2. データを利活用する

- ①データの基本
- ②データを活用するために
- ③データ利活用のステップ
- ④データを収集する
- ⑤データを読む・分析する
- ⑥データを表現する

3. AIを使ったデータ利活用の高度化

- ①進むAIの民主化：AIの進化とその影響
- ②AI(人工知能)とは
- ③AIが知的な作業を模倣するための2つのアプローチ
- ④ディープラーニング(深層学習)とは
- ⑤AIモデルの種類

⑥AIの活用ステップ

- ⑦AIと上手に付き合おう

4. データ利活用事例

- ①全社員がEXCELを使ってデータ利活用
- ②オープンデータを活用した住環境把握
- ③行政・カーナビデータを活用した事故多発箇所、危険箇所の特定
- ④行動×購買データを利活用した商業施設活性化
- ⑤センシングデータを活用した故障検知・予測
- ⑥生産量データを利用した需要予測と生産工場振分けの最適化
- ⑦データ駆動型遠隔営農支援プロジェクトを開始

5. データ利活用における留意事項

- ①留意すべき倫理・法制度
- ②データのセキュリティ

さいごに～あなたのデータ利活用準備度合チェック～

生成AI研修

コースコード：CD7910

生成AI時代の仕事術

多様な活用事例から生成AIの活用がイメージできる

普段の仕事に生成AIをどう取り入れるのかを理解し、文書作成やリサーチといった要素スキルごとに生成AIの活用方法や留意点を学習いただくことが可能です。

対象者

生成AIを普段の仕事に取り入れたい方

期間

0.5日間

学習形態

オンライン

**金額
(税込)**

49,500円

前提条件

Microsoft CopilotやChatGPT等の対話型生成AIツールを利用できること

効果・達成目標

- ・自身の業務における、生成AI活用の可能性を見出すことができる
- ・一般的な業務シーンにおいて、生成AIをどのように活用するのか理解できる
- ・生成AIを取り入れる際に必要なスキルや留意点を理解できる

主なカリキュラム

1. 一般的な業務シーンにおける生成AIの活用
2. 生成AI X 文書作成
3. 生成AI X リサーチ
4. 生成AI X ヒアリング
5. 生成AI X Excel
6. 生成AI X その他の要素スキル
7. まとめ

特徴

講座だけにとどまらず、対話型生成AIツール（Copilot for Microsoft 365等※）を用いたワークを実施します。
ワークを通じて文書作成やリサーチ等の業務がどのように変化していくかを体験し、具体的に生成AIを自身の業務へ活用するきっかけをつかんでいただく研修です。
※研修実施時点で公開されている情報を前提に解説予定

コースコード：CD7910

生成AI時代の仕事術

カリキュラム

アジェンダ / 内容

1. 一般的な業務シーンにおける生成AIの活用

【デモ】 一般的な業務シーンにおける生成AIの活用例を見てみよう
業務ツールの最新動向把握（Microsoft 365 Copilot等※）
生成AIによる要素スキルの進化（文書作成、リサーチ等）

2. 生成AI X 文書作成

生成AI活用により文書作成方法はどう変わりうるか
【ワーク】 文章を生成／校正してみよう！

3. 生成AI X リサーチ

生成AI活用によりリサーチ方法はどう変わりうるか
【ワーク】 なじみのないテーマについてリサーチしてみよう！

4. 生成AI X ヒアリング

生成AI活用によりヒアリング方法はどう変わりうるか

5. 生成AI X Excel

最新Excelの主要機能を把握する
（Microsoft 365 Copilot、Python in Excel等※）

6. 生成AI X その他の要素スキル

会議／議事録、アイデア出しへの活用 等

7. まとめ

※研修実施時点で公開されている情報や機能を前提に解説予定

コースコード：CD8010

生成AIのシステム開発業務への活用（超入門）

生成AIの活用余地を見出すことができる

システム開発において生成AIを活用する際、どの場面で使えるのか、どのような活用イメージとなるかを学習します。生成AIを活用することでより大きな効果を得るためのポイントを理解することが可能です。

対象者

開発ツールの生成AI機能について未経験の方

期間

0.5日間

学習形態

オンライン

**金額
(税込)**

49,500円

前提条件

Microsoft CopilotやChatGPT等の対話型生成AIツールを利用できること

効果・達成目標

- ・システム開発への生成AIの活用余地の概要を理解できる
- ・生成AIのポテンシャルをより引き出すためのポイントを理解できる

主なカリキュラム

1. システム開発において生成AIの活用余地を概観する
2. コーディング・テストにおける活用例
3. 企画・提案・要件定義・設計における活用例
4. 運用保守、システム基盤、プロジェクト管理等の領域における活用例
5. 生成AIのポテンシャルを引き出す使い方
6. まとめ

特徴

本講座では、生成AIのポテンシャルを引き出すためのポイントをまとめて解説しています。
また、研修の後半では、自身の状況における活用場面を検討するワークを通じて、生成AIを実業務で活用できるような内容となっています。

コースコード：CD8010

生成AIのシステム開発業務への活用（超入門）

カリキュラム

アジェンダ / 内容

1. システム開発において生成AIの活用余地を概観する
【デモ】 システム開発における生成AIの活用例を見てみよう
システム開発における生成AIの活用例の把握

2. コーディング・テストにおける活用例
【デモ】 生成AIの活用例を見てみよう(GitHub Copilot)
【デモ】 生成AIの活用例を見てみよう(GitHub Copilot Chat)
活用例を見てみよう！／
試した結果を見てみよう！

3. 企画・提案・要件定義・設計における活用例
活用例を見てみよう！／
試した結果を見てみよう！

4. 運用保守、システム基盤、プロジェクト管理等における活用例
活用例を見てみよう！／
試した結果を見てみよう！

5. 生成AIのポテンシャルを引き出す使い方
工夫せずそのまま使うとどうなるか
生成AIのポテンシャルを引き出すためのポイント

6. まとめ
【ワーク】 本研修の振り返り

コースコード：CD8110

生成AIに関する提案基礎 ～テーマの類型、提案のポイント

生成AIの提案活動に特化して基礎知識を学習

生成AIは顧客組織の関心が高いテーマであるものの、様々な活用例が考えられ、導入・定着化に向けた考慮事項も多種多様になっており、ITベンダへの支援ニーズが高いと想定されます。

本講座では、ITベンダとして、顧客組織へ生成AIに関する提案をするための基礎知識を習得していただきます。

対象者

生成AIについて、顧客から相談を受けている方
(受けそうな方)、
顧客組織へ提案を求められている方

期間

0.5日間

学習形態

オンライン

金額 (税込)

49,500円

前提条件

なし

効果・達成目標

- ・生成AIの提案活動を進める際に、必要となる基礎知識を理解できる
- ・顧客組織への生成AIに関する提案活動における主要論点を理解できる
- ・生成AIの導入や定着化における考慮事項が理解できる

主なカリキュラム

1. 生成AIに関する提案活動の前提として考慮すべきこと
2. 生成AIに関する提案テーマ
3. 生成AIに関する提案の主要論点
4. 生成AI特有の考慮事項
5. まとめ

特徴

生成AIの活用例は、多岐にわたるため、顧客組織における導入・定着化に向けた、提案も様々なものが考えられます。そのため、従来のソリューション提案とはまた違った観点での考慮事項が必要となります。

本講座は、講義形式を中心に生成AIならではの考慮事項や主要論点を理解していただく内容となっています。

コースコード：CD8110

生成AIに関する提案基礎 ～テーマの類型、提案のポイント

カリキュラム

アジェンダ / 内容

- | | |
|--|---|
| 1. 生成AIに関する提案活動の前提として考慮すべきこと
自社の立ち位置を確認する（競合優位等）
顧客組織・業界における生成AIへの取組み方針、スケジュール感の把握
業務実施環境の変化見通し（ツールの変化動向） | 4. 生成AI特有の考慮事項
リスク要因
生成AI関連プロダクト
コスト構造 等 |
| 2. 生成AIに関する提案テーマ
ユースケースの例と類型
ユースケース類型ごとの考慮点
活用方法の探索支援
活用方法の詳細検討
新たな活用方法の開発の必要性和進め方のポイント | 5. まとめ |
| 3. 生成AIに関する提案の主要論点
業務効果に結び付くものを取りあげる
新たな技術を組織で使い始め定着化させるためのステップ
技術動向、製品動向が激変していく環境下での施策遂行のポイント 等 | |

IT基礎研修

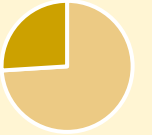
コースコード：BD1110

システム開発基礎研修

システム開発に必要な基礎知識を網羅的に学ぶ

SWEBOK をベースに、システム開発における「ソフトウェア開発」、「IT基盤構築」、「プロジェクト管理」等の位置づけと関係性を学習します。

また、講義・演習を通して各工程の目的、成果物、終了条件を習得します。



■ 講義 ■ 演習

対象者入社3～10年目
程度の社員**期間**

2日間

学習形態

オンライン

金額
(税税込)

77,000円

前提条件

システム開発に関する新入社員相当
(情報処理技術者試験：基本情報技術者試験相当)
の基礎知識を有していること

効果・達成目標

- ・システム開発の意味、重要性、プロジェクトの各担当者の役割を理解し、開発の全体像を説明できる
- ・システム開発に関する全般的な知識を身に付け、今後のキャリア形成に向けた基礎づくりをサポートする

主なカリキュラム

1. システム開発とは
2. 企画工程
3. アプリケーション開発
4. IT基盤構築
5. 移行工程
6. 保守・運用工程
7. プロジェクト管理

主な演習

- ・要件定義工程演習
- ・設計工程演習
- ・製造工程演習
- ・試験工程演習
- ・移行工程演習

コースコード：BD1110

システム開発基礎研修

カリキュラム

※適宜休憩をはさみます

所用時間	1日目 アジェンダ / 内容
20分	オリエンテーション、本研修について、注意事項
90分	第1章 システム開発とは 「目的」「システムの変遷」「システム開発の進め方」 「ソフトウェアエンジニアリング」「開発標準」
20分	第2章 企画工程 「目的」「作業手順と内容」
35分	第3章 アプリケーション開発 「開発の流れ」「要件定義工程」
60分	昼休憩
55分	「要件定義工程」 続き
60分	演習 要件定義工程
45分	「設計工程」
55分	演習 設計工程
15分	1日のまとめ、事務連絡

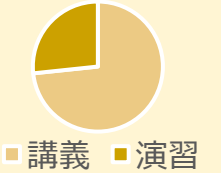
所用時間	2日目 アジェンダ / 内容
20分	前日の振り返り
55分	「製造工程」
40分	演習 製造工程
30分	「試験工程」
25分	演習 試験工程
60分	昼休憩
40分	演習 試験工程 続き
35分	第4章 IT基盤構築
55分	第5章 移行工程
45分	演習 移行工程
20分	第6章 保守・運用工程
45分	第7章 プロジェクト管理
30分	1日のまとめ、事務連絡

コースコード：BD1210

基盤技術基礎

IT基盤構築に必要な基礎知識を網羅的に学ぶ

OS、ハードウェア、ネットワーク、データベースなどの基盤技術の原理原則を網羅的に学習します。
また、システム性能や監視といった、IT基盤構築にあたって考慮すべき観点についても学習します。

**対象者**入社3～10年目
程度の社員**期間**

4日間

学習形態

オンライン

**金額
(税込)**

154,000円

前提条件

システム開発に関する新入社員相当
(情報処理技術者試験：基本情報技術者試験相当)
の基礎知識を有していること

効果・達成目標

- ・ IT基盤構築に必要な要素技術の原理原則を説明でき、IT基盤に関連する用語についても網羅的に説明できる
- ・ IT基盤構築に関する体系的な知識を身に付け、今後のキャリア形成に向けた基礎づくりをサポートする

主なカリキュラム

1. コンピュータシステムにおける原理原則
2. OSの原理原則
3. ハードウェアの原理原則
4. ネットワークの原理原則
5. データベースの原理原則
6. システム構成の原理原則

主な演習

- ・ ディスカッション演習
(プロセスの状態推移、仮想記憶、キャッシュ、CPU、メモリ、ハードディスク、ハードウェア)
- ・ ロールプレイ演習
(OSHW、LAN、インターネット接続、WAN、インデックス、DB運用、三階層)

コースコード：BD1210

基盤技術基礎

カリキュラム

※適宜休憩をはさみます

所用時間	1日目 アジェンダ / 内容
30分	オリエンテーション、本研修について、注意事項、自己紹介
55分	第1章 コンピュータシステム における原理原則、確認問題
30分	第2章 OSの原理原則 「OSの役割」
5分	演習 ディスカッション 「OSの役割」
40分	第2章 OSの原理原則 「プロセス管理」「メモリ管理」
60分	昼休憩
15分	第2章 OSの原理原則
10分	演習 ディスカッション 「仮想記憶、キャッシュ」
60分	第3章 ハードウェアの原理原則 「CPU、主記憶装置」
15分	演習 ディスカッション 「CPU/メモリ/ハードディスク」
50分	第3章 ハードウェアの原理原則 「記憶装置、RAID、バス」
100分	演習 ハードウェアディスカッション 「バス」「OS/HW」
10分	1日のまとめ、質疑応答、事務連絡

所用時間	2日目 アジェンダ / 内容
20分	前日の振り返り
20分	演習 前日の振り返り
115分	第4章 ネットワークの原理原則 「LAN」
60分	昼休憩
130分	第4章 ネットワークの原理原則 「IPの制御」「TCPの制御」等
100分	演習 LAN演習
10分	1日のまとめ、質疑応答、事務連絡

コースコード：BD1210

基盤技術基礎

カリキュラム

※適宜休憩をはさみます

所用時間	3日目 アジェンダ / 内容
60分	前日の講義振り返り 演習振り返り
120分	演習 インターネット接続演習
60分	昼休憩
75分	第4章 ネットワークの原理原則 「WAN」
120分	演習 WAN演習
40分	第5章 データベースの原理原則
10分	演習 インデックス演習
10分	1日のまとめ、質疑応答、事務連絡

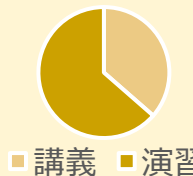
所用時間	2日目 アジェンダ / 内容
10分	前日の振り返り
30分	演習 インデックス演習 続き
100分	第5章 データベースの原理原則 続き
30分	演習 データベース運用演習
60分	昼休憩
100分	演習 データベース運用演習 続き
70分	第6章 システム構成の原理原則
60分	総合演習
20分	1日のまとめ、質疑応答、アンケート

コースコード：BD1311

要件定義基礎

要件定義に必要な基礎知識を体系的に学ぶ

SWEBOKをベースとして、要件定義における基本的な用語を理解し、機能要求を抽出、分析、仕様化、検証するための基本的な技法を網羅的に学習します。また、複数の演習を通して、要件定義工程の主要な成果物の作成スキルを習得します。

**対象者**入社3～10年目
程度の社員**期間**

2日間

学習形態

オンライン

金額
(税込)

77,000円

前提条件

システム開発ベーシックシリーズ
「システム開発基礎」、「基盤技術基礎」を
受講していることが望ましい

効果・達成目標

- ・ 要件定義工程における基本的な用語が説明でき、要件定義工程の主要な成果物が作成できる
- ・ 要件定義に関する体系的な知識を身に付け、今後のキャリア形成に向けた基礎づくりをサポートする

主なカリキュラム

1. 要件定義の目的
2. 要件定義の基礎知識
3. 要件定義のプロセス

主な演習

- ・ 要求の文章化
- ・ 業務ワークフロー
- ・ 外部仕様の定義
- ・ インタビュー
- ・ FP法による規模軽量
- ・ 利用者定義定義
- ・ 業務フロー定義
- ・ 機能抽出
- ・ 機能定義

コースコード：BD1311

要件定義基礎

カリキュラム

※適宜休憩をはさみます

所用時間	1日目 アジェンダ / 内容
15分	オリエンテーション、本研修について、注意事項
20分	第1章 要件定義の目的
25分	第2章 要件定義の基礎知識 「要件定義の基本事項」
40分	演習 要求の文書化
15分	第2章 要件定義の基礎知識 「要件定義の活動」
45分	演習 グループディスカッション～要求の衝突～
60分	昼休憩
45分	演習 業務フロー図
25分	第2章 要件定義の基礎知識 「要件定義の活動」 続き
45分	演習 外部仕様の定義
40分	第2章 要件定義の基礎知識 「要件定義の技法」
55分	演習 インタビュー
15分	まとめ、事務連絡

所用時間	2日目 アジェンダ / 内容
10分	前日の振り返り
45分	第2章 要件定義の基礎知識 「要求の管理」 「要件定義の計量」
55分	演習 FP法による規模軽量
15分	第2章 要件定義の基礎知識 「要件定義のツール」
35分	第3章 要件定義における成果物
10分	演習 利用者定義
60分	昼休憩
35分	演習 利用者定義 続き
80分	総合演習 1
40分	総合演習 2
80分	総合演習 3
20分	まとめ、事務連絡、アンケート

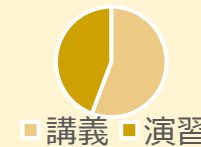
コースコード：BD1411

ソフトウェア設計基礎

ソフトウェア設計に必要な基礎知識を体系的に学ぶ

SWEBOKをベースとして、ソフトウェア設計における基本的な用語を網羅的に学習するとともに、標準的な流れを通してそれらの知識を実際にどのように活用するかを学習します。

また、複数の演習を通して、ソフトウェア設計工程の主要な成果物の作成スキルを習得します。

**対象者**

入社3～10年目
程度の社員

期間

2日間

学習形態

オンライン

金額
(税税込)

77,000円

前提条件

システム開発ベーシックシリーズ「システム開発基礎」、「基盤技術基礎」、「データモデル設計基礎」を受講していることが望ましい

効果・達成目標

- ・ソフトウェア設計工程における基本的な用語が説明でき、ソフトウェア設計工程の主要な成果物が作成できる
- ・ソフトウェア設計に関する体系的な知識を身に付け、今後のキャリア形成に向けた基礎づくりをサポートする

主なカリキュラム

1. 設計の目的
2. 設計の基礎知識
3. 設計のプロセス

主な演習

- ・ DFDとストラクチャーチャート
- ・ モジュールの設計
- ・ デシジョンテーブルによる設計
- ・ カプセル化/情報隠蔽
- ・ インタフェースと実現の分離
- ・ ロバストネス図
- ・ オブジェクトの設計
- ・ 文章による構造化設計
- ・ ソースコードレビュー

コースコード：BD1411

ソフトウェア設計基礎

カリキュラム

※適宜休憩をはさみます

所用時間	1日目 アジェンダ / 内容
10分	オリエンテーション、本研修について、注意事項
10分	第1章 設計・製造の目的
100分	第2章 設計の基礎知識 「設計の基本事項」 「設計の手法」
35分	演習 DFDとストラクチャーチャート
60分	昼休憩
45分	演習 モジュールの設計
25分	演習 デシジョンテーブルによる設計
60分	第2章 設計の基礎知識 「設計の手法」 続き
115分	演習 カプセル化/情報隠蔽 インタフェースと実現の分離、ロバストネス図
25分	まとめ、事務連絡

所用時間	2日目 アジェンダ / 内容
15分	前日の振り返り
70分	演習 オブジェクトの設計
70分	第2章 設計の基礎知識 「設計の活動」
15分	演習
60分	昼休憩
30分	第2章 設計の基礎知識 「設計の活動」 続き
50分	第2章 設計の基礎知識 「設計の計量」
70分	第3章 設計のプロセス 「製造の基礎知識」「コーディングの基本事項」 「コードの計量」「製造の品質」
40分	演習 ソースコードレビュー
20分	まとめ、事務連絡

コースコード：BD1510

データモデル設計基礎

データモデル設計に必要な基礎知識を体系的に学ぶ

データモデリングに必要な基礎知識、モデリングプロセス、技法を学び、概念モデル、論理モデル、物理モデル作成方法を学習します。

また、複数の演習を通して、E-R図などデータモデリングに関する主要な成果物の作成スキルを習得します。



■ 講義 ■ 演習

対象者入社3～10年目
程度の社員**期間**

2日間

学習形態

オンライン

金額
(税込)

77,000円

前提条件

システム開発ベーシックシリーズ
「システム開発基礎」、「基盤技術基礎」
を受講していることが望ましい

効果・達成目標

- ・データモデリングの意味、重要性、プロジェクトでの役割を理解し、開発の全体像を説明できる
- ・データモデリングに関する体系的な知識を身に付け、今後のキャリア形成に向けた基礎づくりをサポートする

主なカリキュラム

1. データベースの基本
2. データモデル作成の進め方
3. ERモデリング表記法
4. 概念データモデル作成
5. 論理データモデル作成
6. 物理データモデル作成

主な演習

- ・エンティティと属性の作成、主キーの設定
- ・リレーションシップの作成、ERモデル まとめ
- ・トップダウン/ボトムアップアプローチによる分析
- ・論理データモデル作成
- ・テーブル容量の見積もり

コースコード：BD1510

データモデル設計基礎

カリキュラム

※適宜休憩をはさみます

所用時間	1日目 アジェンダ / 内容
15分	オリエンテーション、本研修について、注意事項
15分	第1章 データベースの基本 「リレーショナルデータベース、トランザクション」
30分	第2章 データモデリングの進め方 「データ中心アプローチ、データモデル作成」
60分	第3章 ERモデリング表記法 「ERモデル、エンティティと属性」 「リレーションシップの基本、詳細なモデル表記」
15分	演習 エンティティと属性の作成、主キーの設定 リレーションシップの作成
60分	昼休憩
90分	第4章 概念データモデル作成 「概要、トップダウンアプローチによる分析」 「ネーミング標準とドメイン」
120分	演習 ERモデル まとめ トップダウンアプローチによる分析、解説
15分	まとめ、事務連絡

所用時間	2日目 アジェンダ / 内容
10分	前日の振り返り
50分	第4章 概念データモデル作成 「ボトムアップアプローチによる分析」
120分	演習 ボトムアップアプローチによる分析
	昼休憩
60分	演習 トップダウンアプローチによる分析 ボトムアップアプローチによる分析
10分	第4章 概念データモデル作成 「概念データモデル融合」
50分	第5章 論理データモデル作成 「論理データモデル作成概要」「アクセス分析」 「非正規化」「モデル変換」
50分	演習 論理データモデル作成
	第6章 物理データモデル作成
25分	復習、まとめ、アンケート

コースコード：BD1611

ソフトウェア試験基礎

ソフトウェア試験に必要な基礎知識を体系的に学ぶ

SWEBOKをベースとして、ソフトウェア試験に関連した計量尺度など試験工程に必要な知識を学習すると共に、標準的な開発の流れを通してそれらの知識の活用方法を学習します。

また、複数の演習を通して、システム試験工程の主要な成果物の作成スキルを習得します。



■ 講義 ■ 演習

対象者入社3～10年目
程度の社員**期間**

2日間

学習形態

オンライン

金額
(税税込)

77,000円

前提条件

システム開発ベーシックシリーズ「システム開発基礎」、「基盤技術基礎」、「ソフトウェア設計基礎」を受講していることが望ましい

効果・達成目標

- ・ソフトウェア試験工程における基本的な用語が説明でき、ソフトウェア設計工程の主要な成果物が作成できる
- ・ソフトウェア試験に関する体系的な知識を身に付け、今後のキャリア形成に向けた基礎づくりをサポートする

主なカリキュラム

1. 試験の目的
2. 試験の基礎知識
3. 試験のプロセス

主な演習

グループディスカッション、同値分割_境界値分析、
テストケース設計技法、デシジョンテーブル作成、
状態遷移テスト、制御パステスト、単体テスト、統合テスト

コースコード：BD1611

ソフトウェア試験基礎

カリキュラム

※適宜休憩をはさみます

所用時間	1日目 アジェンダ / 内容
20分	オリエンテーション、本研修について、注意事項
35分	第1章 試験の目的 「試験が注目される背景と動向」 「試験と品質、試験の位置づけ、目的と終了条件」
85分	第2章 試験の基礎知識 「試験の基本事項」 「試験の活動」
25分	ディスカッション
60分	昼休憩
75分	第2章 試験の基礎知識「試験の活動」 「テストケース設計技法」
25分	グループディスカッション、確認問題
70分	演習 テストケース設計技法 デシジョンテーブル作成 状態遷移テスト、制御パステスト
20分	まとめ、事務連絡

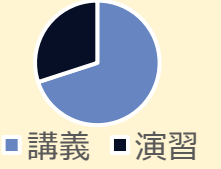
所用時間	2日目 アジェンダ / 内容
15分	前日の振り返り
80分	第2章 試験の基礎知識 「試験の計量」 「品質管理」 「試験のツール」
35分	第3章 試験の作成 「試験の成果物」 「単体テストの説明」
45分	演習 単体テスト
60分	昼休憩
45分	演習 単体テスト 総合演習
40分	第3章 試験の作成 「統合テストの説明」
100分	演習 統合テスト
15分	第3章 試験の作成 「総合テストの説明」
25分	まとめ、事務連絡、アンケート

コースコード：VV2310

IT基礎パッケージ（要素技術編） ～セルフラーニング型オンボーディングプログラム～

オンボーディング支援

本研修は新入社員や中途採用（IT初心者）の方におすすめします。全科目講義は動画、演習についてはクラウド環境をご用意しておりますので、業務の合間や隙間時間を使って学習することができます。受講を進めるうえで不明点があった場合はリモートサポートが質問に回答しますので安心してご受講いただけます。



対象者	新入社員や中途採用（IT初心者）の方	期間	11日間	学習形態	オンライン	金額 (税込)	165,000円	前提条件	なし
-----	--------------------	----	------	------	-------	------------	----------	------	----

効果・達成目標

IT業界に必要なIT要素技術や用語について理解できる。
プログラミングの基本知識・スキルを身に着ける。

主なカリキュラム

- 1 ITサービスのキホン
- 2 データベース技術入門
- 3 ネットワーク入門
- 4 セキュリティ入門
- 5 アルゴリズム入門
- 6 システム開発入門
- 7 プログラミング言語入門

特徴

- ・ **豊富な受講実績**→NTTデータグループの新入社員研修をベースに作成し、業務部門からの異動社員の方やIT経験のないキャリア採用・第二新卒の方、IT経験はあるものの改めて基礎を学びなおしたい方に多数ご受講いただいております。
- ・ **効果的なスキル習得**→開始時にはアセスメントを実施し、事前のスキルレベルを測定します。受講後には修了テストを実施し、理解度を測ることでIT未経験者の早期戦力化を支援します。

IT基礎パッケージ（要素技術編） ～セルフラーニング型オンボーディングプログラム～ **（赤枠）**

項目	概要													
研修名	IT基礎パッケージ（オンデマンド）（①IT基礎パッケージ（全7科目）、②プログラミングパッケージ（全5科目））													
ねらい	IT業界に必要なIT要素技術や用語について理解できる。プログラミングの基本知識・スキルを身に着ける。													
全体像	開始時	研修期間中											研修後	
		IT基礎パッケージ						プログラミングパッケージ						
		IT要素技術科目					開発 プロセス		プログラミング科目					
	ア セ ス メ ン ト	IT サー ビス の キ ホ ン	デ ー タ ベ ー ス 技 術 入 門	ネ ッ ト ワ ー ク 入 門	セ キ ュ リ テ ィ 入 門	ア ル ゴ リ ズ ム 入 門	シ ス テ ム 開 発 入 門	プ ロ グ ラ ミ ン グ 言 語 入 門	オ ブ ジ ェ ク ト 指 向 入 門	J D B C プ ロ グ ラ ミ ン グ	W e b 技 術 入 門	プ ロ グ ラ ミ ン グ S e r v i c e / J S P	M V C プ ロ グ ラ ミ ン グ	復 習 （ 自 習 ）
		1 日	2 日	1 日	1 日	2 日	1 日	3 日	5 日	2 日	1 日	2 日	5 日	
ラーニング プラットフォーム	講義動画													講義 動画
	ユニバクラウド（AWS） / OliveOne / Teams（リモートサポート）													

コースコード：VV2810

プログラミングパッケージ ～セルフラーニング型オンボーディングプログラム～

オンボーディング支援

本研修は新入社員や中途採用（IT初心者）の方におすすめします。全科目講義は動画、演習についてはクラウド環境をご用意しておりますので、業務の合間や隙間時間を使って学習することができます。受講を進めるうえで不明点があった場合はリモートサポートが質問に回答しますので安心してご受講いただけます。



■ 講義 ■ 演習

対象者	新入社員や中途採用（IT初心者）の方	期間	15日間	学習形態	オンライン	金額 (税込)	198,000円	前提条件	IT基礎パッケージ（VV2310）を受講済みまたは同等の知識があること
-----	--------------------	----	------	------	-------	------------	----------	------	-------------------------------------

効果・達成目標

業界に必要なプログラミングの基本的な概念、仕様、意味を理解できる。
業界に必要なプログラミング（Java言語）のスキルを身に着ける。

主なカリキュラム

- 1 オブジェクト指向プログラミング
- 2 JDBCプログラミング
- 3 Web技術入門
- 4 Servlet/JSPプログラミング
- 5 MVCプログラミング

特徴

・ **豊富な受講実績**→NTTデータグループの新入社員研修をベースに作成し、業務部門からの異動社員の方やIT経験のないキャリア採用・第二新卒の方、IT経験はあるものの改めて基礎を学びなおしたい方に多数ご受講いただいております。

・ **効果的なスキル習得**→開始時にはアセスメントを実施し、事前のスキルレベルを測定します。受講後には修了テストを実施し、理解度を測ることでIT未経験者の早期戦力化を支援します。

コースコード：VV2810

プログラミングパッケージ

～セルフラーニング型オンボーディングプログラム～ (赤枠)

項目	概要												
研修名	IT基礎パッケージ（オンデマンド）（①IT基礎パッケージ（全7科目）、②プログラミングパッケージ（全5科目））												
ねらい	プログラミングの基本的な概念、仕様、意味を理解できる。プログラミング（Java言語）のスキルを身に着ける。												
全体像	開始時	研修期間中											研修後
		IT基礎パッケージ						プログラミングパッケージ					
		IT要素技術科目					開発 プロセス		プログラミング科目				
	ア セ ス メ ン ト	I T サ ー ビ ス の キ ホ ン	デ ー タ ベ ー ス 技 術 入 門	ネ ッ ト ワ ー ク 入 門	セ キ ュ リ テ ィ 入 門	ア ル ゴ リ ズ ム 入 門	シ ス テ ム 開 発 入 門	プ ロ グ ラ ミ ン グ 言 語 入 門	オ ブ ジ ェ ク ト 指 向 入 門	J D B C プ ロ グ ラ ミ ン グ	W e b 技 術 入 門	ブ S e r v i e t / J S P ラ ミ ン グ	M V C プ ロ グ ラ ミ ン グ
		1 日	2 日	1 日	1 日	2 日	1 日	3 日	5 日	2 日	1 日	2 日	5 日
ラーニングプラットフォーム	講義動画												
	ユニバクラウド（AWS） / OliveOne / Teams（リモートサポート）												
		講義動画											

プロジェクトマネジメント研修

品質管理基礎

※適宜休憩をはさみます

学習内容イメージ

3.4 品質検証工程における品質評価

収集されたデータをもとに、定量的および定性的な観点で品質の評価を行います。

演習問題2 品質の検証工程-故障連絡票の記述ポイント

1. 演習問題

■ 演習の目的
故障連絡票が明確に記載されていないと故障解析、対応内容の検討、品質分析・評価が正しくできない状況となります。その結果、適切なアクションを打つことができない、バグが潜在化する、品質が向上せず開発期間やコストがかかる等、さまざまな影響を及ぼす可能性があります。

本演習では、故陣連絡票の記載事例から、記載内容に問題がある点を探し、何が問題か、どのように記載すれば良いかを学ぶことで、陣営連絡票の記載ポイントを学びます。

■ 演習内容
あるプロジェクトの障害連絡票があります。

(3) 指摘事項について修正案をあげてください。

■ 留手

ステップ	作業内容
【ステップ1】 個人作業 【20分】	➤ 故障連絡票の読了後、指摘事項の抽出、修正票の検討を行う
【ステップ2】 グループ作業 【20分】	➤ 指摘事項、修正票についてのディスカッションを行う
【ステップ3】 発表 【10分】	➤ 発表、質疑応答
講評・解説、質疑応答 【10分】	➤ 講評・解説、質疑応答

37

コースコード：BD1710

品質管理基礎

学習内容イメージ

第3章 品質の検証工程

3.4 品質検証工程における品質評価

収集されたデータをもとに、定量的および定性的な観点で品質の評価を行います。

3.4.1 定量的分析・評価の観点

品質検証工程における定量的分析のもととなるのは、バグ分析結果を正しく評価することです。

そのために品質管理表を作成し、品質管理階層単位で工程ごとの、試験規模、製造規模、試験項目数、バグ件数、バグ検出密度などの推移をまとめます。

品質検証工程における定量的分析には、以下のようなものが挙げられます。

(1)試験項目のレビュー結果

- エラー検出件数
- レビュー工数
- 未回答・未修正件数による判断

(2)試験の実施結果

①バグ検出密度、試験密度による判断

製品規模1Kあたり何件バグが検出されたかにより品質を判断します。また、その際、十分な試験が行われたかという、試験密度による相関チェックも行います。

バグ検出密度の許容限界を外れる場合、品質が悪い可能性が高いと言えます。許容限界の下限を下回る場合は、品質が良いケースもありますが、試験不足や試験結果確認誤りなども考えられます。

バグ検出密度	試験密度	< 許容限界(下側)	許容限界内	> 許容限界(上側)
< 許容限界(下側)	▽	D	F	—
許容限界内	○	D	—	—
> 許容限界(上側)	▲	A	C	B

図3-7 バグ検出密度と試験密度の相関

演習問題2 品質の検証工程-故障連絡票の記述ポイント

1. 演習問題

■ 演習の目的

故障連絡票が明確に記載されていないと故障解析、対応内容の検討、品質分析・評価が正しくできない状況となります。その結果、適切なアクションを打つことができない、バグが潜在化する、品質が向上せず開発期間やコストがかかる等、さまざまな影響を及ぼす可能性があります。

本演習では、故障連絡票の記載事例から、記載内容に問題がある点を探し、何が問題か、どのように記載すれば良いかを学ぶことで、障害連絡票の記載ポイントを学びます。

■ 演習内容

あるプロジェクトの障害連絡票があります。

この故障連絡票を見て、

- (1) 故障連絡票の記載内容について、問題があると考えられる点を指摘してください。
- (2) 指摘した問題点について、修正案をあげてください。

■ 演習手順

ステップ	作業内容
【ステップ1】 個人作業 【20分】	➢ 故障連絡票の読了後、指摘事項の抽出、修正案の検討を行う
【ステップ2】 グループ作業 【20分】	➢ 指摘事項、修正案についてのディスカッションを行う
【ステップ3】 発表 【10分】	➢ 発表、質疑応答
講評・解説、質疑応答 【10分】	➢ 講評・解説、質疑応答

コースコード：BD1810

プロジェクトマネジメント基礎

プロジェクトマネジメントに必要な基礎知識を体系的に学ぶ

PMBOKをベースに、プロジェクトマネジメントの目的、プロセスの概要を学習します。

(初学者が理解しやすいように、プロセスベースで定義されているPMBOK6版をもとに説明しています)

疑似プロジェクトを通じてWBS (Work Breakdown Structuer)作成、作業報告フローやフォーマットの作成を習得します。■講義 ■演習

**対象者**

入社3～10年目
程度の社員

期間

2日間

学習形態

オンライン

金額
(税税込)

77,000円

前提条件

システム開発ベーシックシリーズ「品質管理基礎」を受講していることが望ましい。

効果・達成目標

- ・プロジェクトマネジメントの目的、プロセスの概要を説明でき、WBSなどの管理資料の作成ができる
- ・プロジェクトマネジメントに関する体系的な知識を身に着け、今後のキャリア形成に向けた基礎づくりをサポートする

主なカリキュラム

1. プロジェクトマネジメントの概要
2. プロジェクト管理手順

主な演習

- ・ WBSの作成
- ・ スケジュールの作成
- ・ システム開発プロジェクトの問題点発見と対応策の検討、報告

コースコード：BD1810

プロジェクトマネジメント基礎

カリキュラム

※適宜休憩をはさみます

所用時間	1日目 アジェンダ / 内容
15分	オリエンテーション、本研修について、注意事項
75分	第1章 プロジェクトマネジメントの概要 「重要性」「定義」 「プロジェクトマネジメントを成功させるためには」 「プロジェクトマネージャーの役割」 「ステークホルダーとの関わり」
70分	演習 WBSの作成
60分	昼休憩
45分	第1章 プロジェクトマネジメントの概要 「PMBOKの概要」
100分	第2章 プロジェクト管理手順「プロジェクト統括マネジメント」 プロジェクト/プロセスの立ち上げ プロジェクト計画策定 詳細作業計画策定
75分	演習 スケジュールの作成
20分	まとめ、事務連絡

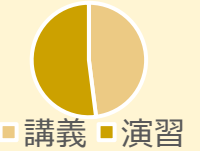
所用時間	2日目 アジェンダ / 内容
10分	前日の振り返り
55分	第2章 プロジェクト管理手順「プロジェクト統括マネジメント」 問題・課題管理 成果の横展開
100分	第2章 プロジェクト管理手順 「プロジェクト・スコープ・マネジメント」 「プロジェクト・タイム・マネジメント」 「プロジェクト・コスト・マネジメント」 「プロジェクト品質マネジメント」
60分	昼休憩
85分	「プロジェクト人的資源マネジメント」 「プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント」 「プロジェクト・リスク・マネジメント」 「プロジェクト調達マネジメント」 「プロジェクトステークホルダマネジメント」
140分	総合演習 システム開発プロジェクトの問題点発見と対応策の検討、報告
30分	まとめ

コースコード：GK8010

IT プロジェクトマネジメント実践

業務に活かせるポイントを学びながら、自身のプロジェクトを振り返る

「PMBOK」に基づきプロジェクトマネジメントに関する理論・知識を着実に理解するとともに、理解した理論・知識の現場適応（現場でどう使うのか、活かすのか）の方法を自ら考えることで、実践力・応用力を身に着けます。



対象者

「プロジェクト」と「プロジェクトマネジメント」とは何かをご存知の方
実案件でのPMノウハウを知りたい方

期間

2日間

学習形態

オンライン

金額 (税込)

88,000円

前提条件

なし

効果・達成目標

- ・プロジェクトマネジメントの基礎知識が定着できる
- ・プロジェクトマネジメントのプロセスと技法を理解し、実際に活用できる
- ・システム開発に求められるプロジェクトマネジメントのポイントが理解できる

主なカリキュラム

1. プロジェクトマネジメント概要
2. ITプロジェクトマネジメント手法
3. PMに必要なヒューマンスキル

主な演習

自プロジェクトの問題の共有と相互アドバイス、進捗管理、コミュニケーションについて 等

コースコード：GK8010

IT プロジェクトマネジメント実践

カリキュラム

※適宜休憩をはさみます

所用時間	1日目 アジェンダ / 内容
20分	オリエンテーション、本研修について、注意事項、自己紹介
45分	第1章 プロジェクトマネジメント概要 「プロジェクトとは」「プロジェクトマネジメントとは」 「プロジェクトマネジャーの役割と人材像」 「失敗プロジェクトとその特徴」 「プロジェクトマネジメント基礎(PMBOKガイド)」
40分	ディスカッション プロジェクトの棚卸し
35分	第2章 ITプロジェクトマネジメント手法 「システム開発の全体像」「プロジェクトの立上げ」 「プロジェクトの計画（システム化～費用算出）」
60分	昼休憩
30分	「プロジェクトの計画（計画書作成）」
100分	「プロジェクトの実行・監視コントロール」 進捗管理、品質管理、仕様管理、 ライブラリ管理、ドキュメント管理
120分	ディスカッション プロジェクトのスケジュール管理、プロジェクトの品質管理
20分	まとめ、事務連絡

所用時間	2日目 アジェンダ / 内容
5分	オープニング
150分	ディスカッション プロジェクトのスコープ管理、プロジェクトのリスク管理 プロジェクトのステークホルダ管理
60分	昼休憩
60分	「プロジェクトの実行・監視コントロール」 続き コスト管理、外注管理、リスク管理、問題管理、チーム編成／育成／マネジメント、コミュニケーション管理、ステークホルダー管理 「プロジェクトの終結」
70分	第3章 PMに必要なヒューマンスキル 「チームマネジメントスキル」 「コミュニケーションスキル」 「問題解決スキル」
80分	ディスカッション 聴くスキル・伝えるスキルの改善案検討 環境変化を踏まえた、PM像の検討
10分	まとめ、アンケート



研修体系構築・運用設計 支援コンサルティング

2

研修体系構築・運用設計支援コンサルティング

■ 研修体系構築・運用設計支援コンサルティングのご立案

想定される 課題

単発の研修のみ実施でスキル定着が図れているか不確かな状況になっている。
人材育成を計画的に管理できておらず何が効果的で何を目指す研修なのかわからない。
教育体系はあるが、特定の部署や人事部などが展開する内容に現場で働く社員が納得できる教育になっていない。
研修体系作成後の運営設計が行えておらず適切な運営実施が図れていない。



- ✓ 研修体系を組織・団体のスキル領域、業務へ連動させることができれば、単発の研修以上に、従業員の能力・モチベーションの向上が期待されます。
- ✓ 結果、組織全体の力を上げることに繋がります。

研修体系施策の進め方

以下のスキームにて研修体系策定を進めます。
主には、当社より原案を提示し、議論を行い策定を進めて参ります。

1

研修体系策定の 基本方針の確認

策定されている各種定義書やスキル標準のロール一覧・共通スキルリスト等をヒアリングし、各人材区分に応じた研修体系を策定致します。

2

研修体系 策定方針検討

レベル・スキル区分に応じて、どのような研修を、どのようなカテゴリでプロットするかを検討します。

必修型、選択型についても検討します。
必要に応じて、初動の段階で運用設計のベースも検討します。

3

研修体系の策定

レベル別・区分別に研修の概要や費用も整理し、ドキュメントにまとめます。

4

運用設計検討

策定した研修体系を元に具体的な運用（費用、スケジュール、プロセス、体制等）を検討します。

設計書やガイドラインを策定します。



育成方針策定支援コンサルティング 人材像/スキル定義策定支援コンサルティング

3

人財像・スキル定義策定等コンサル支援

■ 人財像・スキル定義策定等コンサル支援

想定される 課題

育成の方針や戦略が現場の教育に落とし込めておらず
的確な育成計画になっているか不明瞭である。

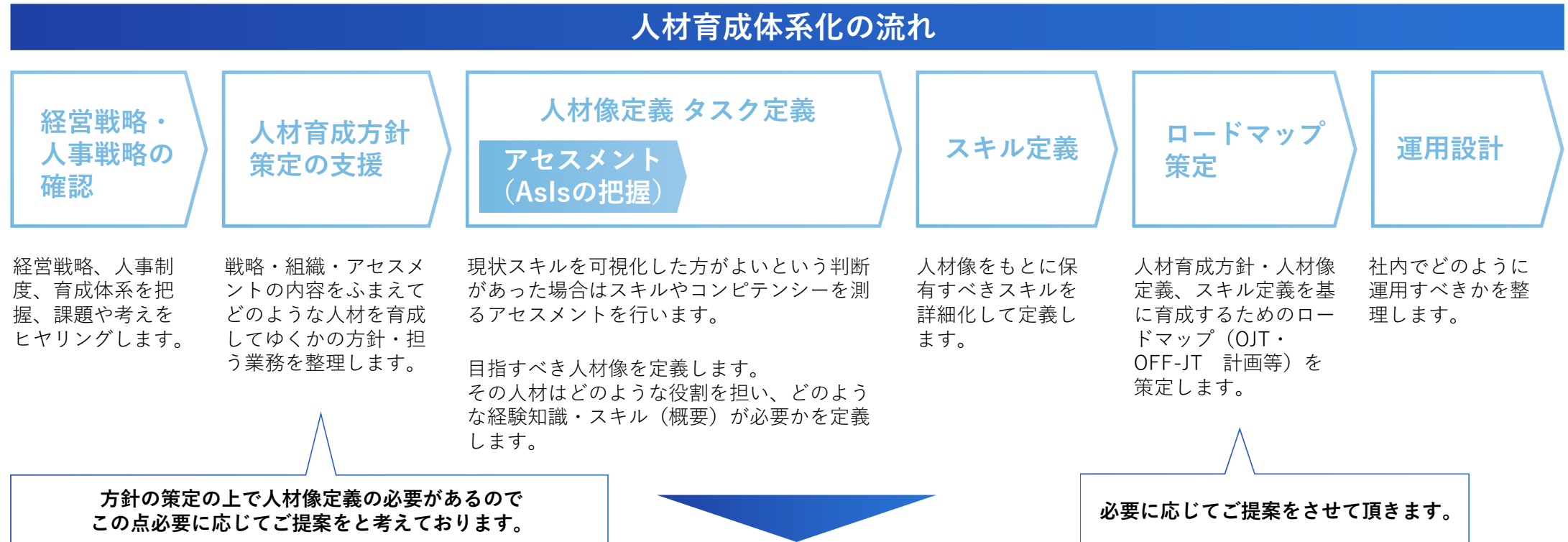
人材像・スキル定義が曖昧で現状の人材育成方針が定まっていないので
経過年の育成分析ができない。

研修運営について設計がなされておらず、育成計画及び実施体制が曖昧になっている。

- 
- ✓ 上位戦略・育成方針に基づく「人材像定義」（求められる役割）を核として、新入社員～高度な専門人材まで一貫した育成体系を構築し、運用する事で以下を実現します。
 - ✓ 【組織】 育成体系を整備することで、計画的かつ組織的な人材育成が実現が可能です。
 - ✓ 【ヒト】 上司・部下とも目指すべき方向性があきらかになり、キャリアアップの指針がわかります。

人材育成体系化の流れ

- 上位戦略・育成方針に基づく「人材像定義」（求められる役割）を核として、新入社員～高度な専門人材まで一貫した育成体系を構築し、運用します。



【組織】 育成体系を整備することで、計画的かつ組織的な人材育成が実現できる
【ヒト】 上司・部下とも目指すべき方向性があきらかになり、キャリアアップの指針がわかる。



オペレーション支援

4

HRBPO施策

HRBPO施策

想定される 課題

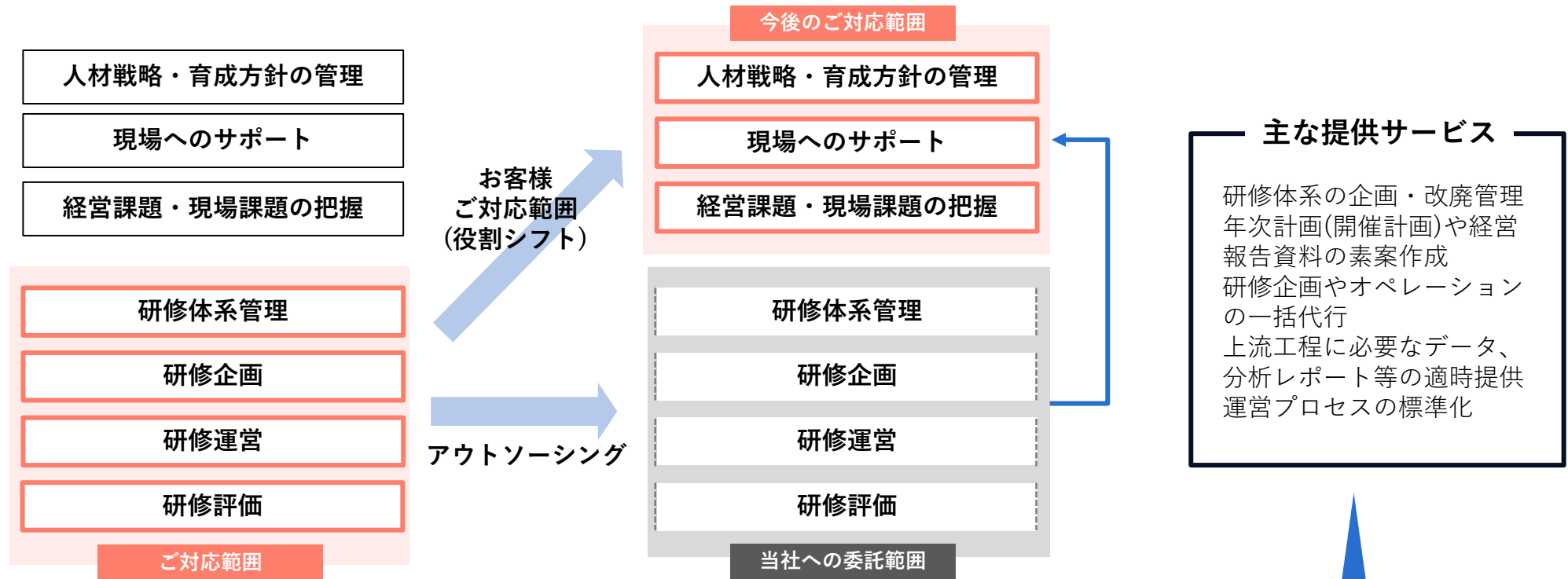
そもそも業務繁忙・人手不足で研修企画開発・運営についてのリソースが足りない。
前例踏襲型の運営となっており施策全体の改善が図れていない。
事業部門との連携が行われてなく形骸的な施策となっている。



- ✓ 【研修品質と運営品質の従来水準以上の担保】
貴社専任チームが、研修効果の適切な測定・フィードバック・改善をご提案します。
- ✓ 【運営に要する工数低減で、戦略的業務へのシフトのための工数捻出】
主たる業務を弊社にお任せいただければ、最大限の工数・コスト低減が可能です。
- ✓ 【業務の標準化の実施】
業務分析及び改善を図ることで、属人的でない運用を実現します。

アウトソーシングによる役割シフト（仮説）

研修体系管理以降の工程をアウトソースいただくことにより、人事部様の役割シフト実現を目指します。



弊社と通常の教育ベンダやアウトソーシング業者との最大の違いは、

①お客様のパートナーエージェントとして研修体系の管理から個々の研修の企画・デリバリーまで一貫して受託可能なこと、②豊富なアライアンス先との連携によるマルチベンダソーシングが可能なことです。

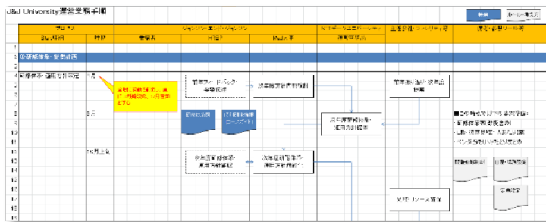
業務標準化

- 業務プロセスをもとに、運用マニュアル、各種帳票・ツール、受講者向けガイドラインなどの整備を、当社実績・ノウハウのもと進めてまいります。

業務プロセス

企画から実施・事後処理までの役割と手順を整理したもの。

内容



役割(人事部様、受講者、現場事業部
HR、当社、主催会社・ファシリティ)
別にフローチャートの形式で整理

業務プロセス

研修運営で使用するドキュメントや管理帳票、ツール類。

内容

日程管理表
受講管理表(兼名簿)
実施仕様書
受講案内・リマインドメール
オブザーブ評価シート
アンケート・講師所感
FAQログ 等

業務プロセス

運用の考え方や、例外対処方針などを定めたもの。

内容

開催形態判断
日程・場所設定
定員設定
キャンセル・中止・変更
著作権と開発費用
受講者からの問合せ対応
修了判定 等

Trusted Global Innovator
NTT DATA Group

NTT DATA